

武富由雄 著

練達 PT タケトミの からだの動きの診かた ポイントとコツ

奈良 勲
(神戸学院大学)

このたび、ユニークなタイトルのついた著書「練達 PT タケトミのからだの動きの診かた ポイントとコツ」が文光堂より出版された。タケトミとは、理学療法界では誰もが知る武富由雄氏のことである。武富氏は第 1 回理学療法士国家試験に合格した 183 人中の一人であり、長年大阪大学医学部附属病院リハビリテーション部に勤務され、その後神戸大学医療技術短期大学部および神戸大学医学部保健学科の教授として活躍された。その間数多くの著書の出版、論文、国内外の学術集会での報告があり、日本理学療法士協会主催の第 14 回全国研修会長、第 22 回日本理学療法士学会会長を務められている。平成 6 年には医学博士を取得、平成 9 年には神戸大学名誉教授の称号が授与されているが、現在でも臨床・教育・研究に精力を注いでおられる怪物である。

本書は、1. “診る” 人の心構え、2. からだの“診かた” 基本、3. 身体各部の診かた、4. 立位と歩行、

5. 付録から構成されている。また、「武富由雄のプロフィール」の中には「診かた、若いセラピストの皆様へ」と題したタケトミならではのメッセージも記載されている。

本書は、武富氏が長年培われてきた「臨床の知」の集大成として著わされた「実践理学療法評価」である。これまで、理学療法評価に関する著書は数多く出版されているが、本書の特徴は、まさしく第 40 回日本理学療法学会大会のテーマ「臨床的感性からの創造」にマッチした作品である。つまり、対象者の可能性を最大限に日常生活活動として具現化するためには、残存機能と失われた機能が混在している対象者の動きを詳細に診るポイントとコツが具体的、かつ平易に提示されている。よって、本書は、理学療法、作業療法を学ぶ学生はもとより、すでに臨床現場で活躍中のセラピストにとっても、対象者の診かたの視野を拡大する上でたいへん有益であるといえる。

しいて、本書に注文をつけるとすれば、2001 年に改訂された国際生活機能分類、ICF に準じた“診かた”も紹介されているとよいと感じた。

●B5 判 304 頁・2 色刷

定価 6,825 円(本体 6,500 円＋税)

2005 年 文光堂・刊